

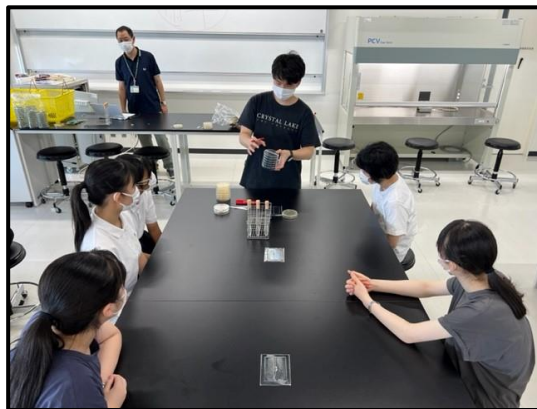
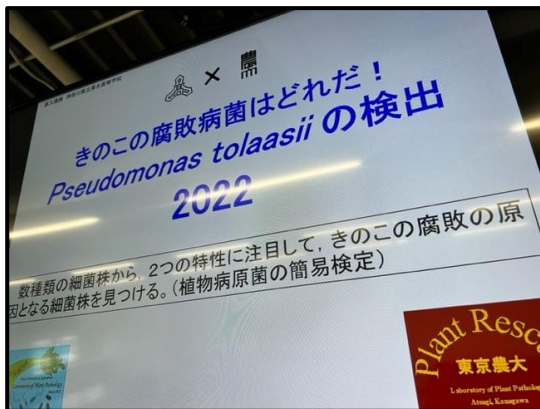
短期集中講座 SS セミナーB 第2回目 (植物病理分野)

普段の授業内では難しいこと、範囲、内容等を、土日や夏休み期間中を利用して、SS セミナーB では特に生物分野 (Biology) について探究していきます。

以下は、8月27日(土)に東京農業大学 (厚木キャンパス) で実施された第2回目の様子です。受講生徒; 高校1, 2年生



事前に宿題となっていた課題 (バクテリア, カビ, ウイルスの違い) について、大学の先生の前で各自 Chrome book を使ってプレゼンをしました。緊張した様子でしたが、なかなかみんな頑張りました。

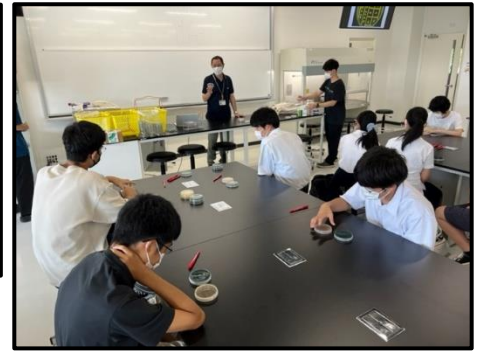


研究室で植物の病気について大学の先生に講義していただきました。その後、実際に病原菌 (カビ) の培養実験を行いました。大学院生の説明を受けて、みんな植菌 (菌を培地に植える操作) を行いました。PCR で使う機器や、培養に使う機器も紹介していただき、初めて見る専門的な機器に、いろいろ気になる様子でした (価格とかも)。



休憩時間は、みんな自然と外を見て気分転換していました。



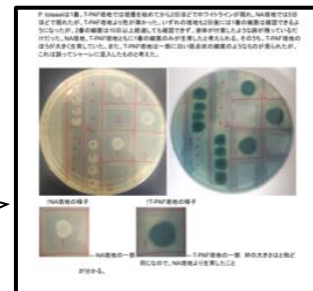


みんなで1人2枚作りました。みんな厚高生なのに、こうやって写真撮ると、とてもプロ（研究職）っぽいですね。この後、お家でカビを育てて、レポート提出、というお土産ができました。前回のお土産とは真逆の気持ちになったかも,,,。

【受講生徒のアンケート（一部抜粋）】

- ・農家にとっては欠かせない問題である病害を知れて良かったと思う。薬剤を使わなければそういった病害に曝されるということは当然知っていたが、中でも桃が農薬なしでは一つも収穫することができない、ということに仰天した。
- ・今まで農薬については、あまり関心がなかったせいか環境に悪いなどという噂しか聞いたことがなかった。なので、今回のように農薬のメリットを知ることができたお陰で、農薬に対して良いイメージを持つきっかけになった。
- ・植物の病気の要因がカビ、細菌、ウイルスと1つだけではない事を知った。
無農薬で得られる収穫の利益のグラフにあったように、人が食べる植物は病気に対する工夫をしないと生産が難しいということが印象に残った。
- ・今回の講義ではまず植物病理学がどういうものかまた、植物を腐らせる原因はカビなんだということを初めて知ることができました。植物を腐らせるカビの中でも、その植物が違えば原因となるカビも違うということは、キャベツを腐らせるカビはじゃがいもなど他の植物も腐らせそうだという自分の予想と違って勉強になりました。特定のカビを観察していく中で、ホワイトラインが出るという新たな発見があったというのは、実際に観察をしないと気づかなかった発見だと思うので、実験や研究の面白さだなと思いました。
- ・さまざまな作物に対する農薬の効果を学ばせていただいたのですが、桃やりんご、きゅうり、レタスなど、何故水分が高めな食物ばかりが農薬に頼らなければならないのでしょうか？
- ・今回のように、色々な実験や観察を沢山やりたいです。

参加生徒の課題レポート
(一部抜粋)



次回は9月10日(土)
テーマは『細菌由来の食中毒と食品・牛乳の検査』だよ。

